1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2276600323		
法人名	有限会社ナチュラル・ライフ		
事業所名	グループホーム桜寿	ユニット名	ふじ・もも
所在地	静岡県磐田市池田391-1		
自己評価作成日	令和2年1月26日	評価結果市町村受理日	令和2年　9月　8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70　静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	令和2年8月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者、職員共に楽しく笑顔のたえない職場づくり。地域との交流、イベントの参加。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

一級河川の近くに立地する事業所である。近隣にはスーパーマーケットやコンビニエンスストア、郵便局、また工場や倉庫街も近くにあり、交通量の多い幹線道路も近くに走っている。コロナや猛暑の今、散歩に出かけられていないが玄関前のウッドデッキで外気浴を行っている。管理者は地域との交流や自然災害の対応を優先できるように模索している。職員は笑顔を絶えない介護を心がけており、アンケートからも「訪問時に笑顔で迎えられる」と好評である。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
		○	3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「尊厳のあるその人らしい穏やかな生活」という法人の理念、事業所独自のケア理念を事業所内に提示し、常に確認し取り組んでいる。また理念を細分化しより具体的のした、「関わりの7原則」を設け実践している。	法人理念のほかにケアグループ「かかわりの7原則」をつくりケアに活かしている。令和2年,7，８月の目標として「ご利用者の尊厳を遵守し安全を確保しよう！」と2か月ごとの事業所目標を作成し、掲示している。毎月振り返りを行い実行具合を確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事や祭典、防災訓練等、参加することで交流を図っている。又、自治会長さんとの関係づくり。	小、中学校の福祉体験学習や自治会での福祉に関する勉強会の課題が出た際に出向いて話すことがある。現在は地域に出向くことが難しい為自治会との関係が途切れないよう自治会長との関係を密にとるようにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のサロン等の参加。豊田中学校の福祉体験や磐田北高校からの介護実習の受け入れを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所における入退去状況や活動について議題に取り上げ、意見交換、質疑応答を行っている。行政職員、地域包括職員、御家族様の参加により開催している。ホームの情報開示を行い、意見、情報交換を行いサービスに活かしている。	今年は1月が最後の開催となり、以降は開催していない。市からの要望で会議での議題のみ作成されている。今までの参加者は家族や自治会長、地域包括支援センター職員が主である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市で開催されている研修会等には出来る限り参加し市の動きや制度改正等の仕組みを確認している。担当者様と連絡をとり、情報交換、アドバイスを受け協力関係が築けるように取り組んでいる。	市において福祉関係全ての業種（特別養護老人ホームやデイサービスなど）が集まり、意見交換する機会が年に数回ある。その時に法律の話を聞いたり、異業種の方たちと情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言をし拘束に繋がることの無いよう職員全員で心掛けている。身体を縛る・押さえつける・閉じ込める等だけではなく、言葉等においても拘束に該当する要素がある事を伝える努力をしている。	不安症状のある方が数人おり、一度3名同時にエスケープされたことがあった。これを踏まえ研修を行い、「こういう時はどうすればいいのだろうか」を考えるようになった。言葉でなかなか制止できない方がいる為、職員全員で意見を出し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	毎月職員全員で会議を行い虐待についての取り上げ職員で話し合い、検討をしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今現在まで日常生活自立支援事業の利用実績無し。成年後見制度を利用されていた方には御家族、後見人へ定期的に連絡を入れ情報共有を図っていた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約、改定時には必ず丁寧な説明と質疑応答をし御家族様にご納得いただき実施している。またいつでも契約内容について質問が出来るように窓口を設けている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、御家族様から意見を頂けるよう面会時には必ず顔を出す等、コミュニケーションを大切にしている。家族会を設けその職員が主に対応している。意見箱も設置し、直接では言いにくいことを少しでも拾うことができるよう努めている。	以前家族との連絡がスムースに取れない時があった。その後、出勤している管理者、介護支援専門員、リーダー3名のうち1名が交代で毎日家族との連携を取り、申し送りノートに記入するように変更した。介護職員は必ず目を通し、確認の印をつけるように変更した。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	処遇改善加算における面談はもちろん、月に1回責任者会議を行い話し合いをしている。	年3回、定期的に個人面談を管理者が行っている。以前、玄関前のスペースは事業所車両の駐車場となっていたが、車両を他に移し、括りつけの椅子と屋根がついているウッドデッキを作り、外気浴が出来るようにした。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別に役割を作ることによりそれぞれの能力、希望に合った条件の整備に努めている。またキャリアパスを取り入れ処遇の改善に努めておる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部では一定の力量に達した時点でチーフ・リーダー研修の受講や、外部研修の機会を設け、業務等を通じて知識、技術の向上が出来るよう取り組んでる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や介護事業者連絡会に参加する機会を増やしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず本人にお会いさせていただき、いきなり支援に入るのではなく、相手と向き合う、関わり合うよう心掛け、まずコミュニケーションをはかる事で本人のニーズを見極め信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に御家族様が困っていること、不安等を尋ねることでコミュニケーションをはかり、御家族様の不安や要望等を聞き家族の思いに寄り添えるようにしている。入居後はご本人の様子を連絡して安心をして頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談の時点でご本人にとって何が一番良いかを考え、必要な場合は他のサービス利用を勧めるなど説明も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の主は入居者であり、職員はあくまでも黒子（支援者）であることを常に考え対応、支援をするよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	サービスを利用するにあたり「家を追い出してしまった」等御家族の中で罪悪感を感じられることのないよう、距離を取ることで出来ること、入居者にとっては御家族様は大切な存在であることを理解していただけるよう努めている。		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族や兄弟、知人に面会に来ていただいたり、御家族様の協力や職員と馴染みの場所へ外出支援している。	事業所に来てくれる知人は少ないが、年末年始や定期的に自宅に外泊する方がいる。自宅の様子を見に行ったり、近隣のスーパーマーケットに買い物に家族と一緒に出掛ける方がいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の横の繋がりが持てるよう配慮し、1人ではない安心感と共に支え合い生活していくことを感じていただけるよう努めている。誕生日会等で入居者同士が交流できるよう努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時にはいつでも相談してもらえるように伝えており、その後の本人の様子をお聞きしている。また、亡くなられた際にも通夜に参列したり、御家族を尋ねたりしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人から希望を聞ける時は本人から希望を聞き、困難な場合は、御家族様から情報を頂き、職員同士で話し合い、本人の希望に添えるよう努めている。	本人の要望をすべて聞くことはできていないが、家族の負担やタイミングを見計らって本人の希望が実行できるように努めている。家族との面会がなかなかできないが、面会の出来る方法を模索している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、御本人、御家族、相談員、ケアマネの方に今までの生活歴や、趣味、生活習慣等の情報を聞き職員全員で共有し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調や心身の状態の変化に気を付けるよう些細なことでも記録に残し、記録を見ることで、職員が現状を把握するよう努めている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	作成前には御本人、御家族、職員の様々な視点からの意見を聞き、その意見を反映し介護計画を作成している。担当者会議の開催。	介護支援専門員を中心に,今までの情報を集めて作成するようにしている。利用者や家族の意見を集め、体調の変化のある方には看護師の意見も計画に入れている。介護職を含めた全員に最終確認を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	バーコード化により記録物は最低限にして利用者とのかかわりを増やす。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現状維持ではなく、本人の身体レベルや御家族様のニーズに沿った生活が出来るよう、多職種との連携を取り柔軟に対応できるよう努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域密着型ということもあり、地域のボランティアの受け入れや自治会にも協力を仰ぎ、地域行事へ積極的に参加できるよう取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には事業所の協力医に移行していただくようにしているが、これまでの経緯や意向を大切にし、御家族様にも協力を得る形でかかりつけ医の継続も行えるようにしている。	入居時に事業所の協力医に変更しているが、専門医には家族送迎にて以前からの医院に受診している。訪問診療は月2回、施設常勤の看護師がいる。協力医や看護師には夜間でも連絡が出来るようになっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回又、往診時に身体状況、日々の様子を含め個別にまとめ情報共有をしている。必要に応じて医師に相談、受診をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には定期的に病院に行き、病院関係者との情報交換や相談をしている。退院カンファレンスに同席させていただき退院後について医師、御家族様の意見を伺うよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時から重度化における対応の指針や、現時点での御家族様の意向、本人の思いを聞き取りをしている。また、入居後も状態の変化が生じた場合は定期的に意向の確認と対応方針の話し合いが行えるよう取り組んでいる。	看取りは行われており、説明用の書類は準備できている。ここ1年以内で看取りは行っていないが、看取り時には管理者がなるべくその場にいるようにしているため、看取りに関して不安な状況は起きていない。家族が泊まれるような準備もできている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	身体症状別対応マニュアルを揃え、いつもと違う様子が見られた場合にはマニュアルに沿って対応し24時間対応があ出来るよう連絡先を定めている。職員全員が対応出来るよう研修等が出来るよう努めていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所内での防災訓練はもちろん、地域の訓練にも積極的に参加し、地域に高齢者施設がある事を理解していただけるよう努めている。又、今後事業所防災訓練に地域の方にも参加していただけるよう努めている。	年3回の防災訓練は行われているが、地域住民の協力関係はまだできていない。自家発電機は2台購入して停電には対応できるが、使用方法は職員全員が把握できていない。避難方法も確立できていない。	一級河川の近い場所にある平屋の事業所である。避難経路や避難場所、近隣住民の協力体制を早急に確立できるようにし、また個人用品の持ち出しも早急に整備することを期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全ての入居者に同じ声掛けをするのではなく、その方の理解力、身体レベルに合わせた声掛け、対応を心掛けている。又、トイレ誘導の際には小さな声で声掛けするよう努めている。	職員が笑顔でいると利用者も安心してくれている。気難しい利用者で以前帰宅願望のある方には、アパート経営をしていた関係で「ここの大家さんです。ここで確認していてください」と言うと安心していた。一人ひとりに合わせた声掛けを心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人から希望があれば出来る限り希望に添えるよう努め、入居者がまだまだ出来るという自信が持てるよう色々な場面で負担にならない程度に決めていただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り一人ひとりのペースを大切にしているが、本人の希望に添えない時もあり、職員のペースで1日の流れが決まってしまっていることがある為改善していきたい。食事に関しては決まった時間でなくても提供出来るようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の洋服も本人の好みの物を選んでいただき、毎日同じ服にならないように心掛けているが出来ていないこともあり改善していかなければならない。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	数ヶ月に一度外食支援の実施(お寿司)	事業所内で職員が全ての調理を行っている。事業所前のプランターや畑でナスやピーマン、ジャガイモなどを栽培して収穫し食材としている。夏の風物詩であるスイカ割りを室内で行った。職員も利用者と一緒に同じものを食べるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の水分量を記録に残し水分が摂れているか把握している。食事量が不足しているときは好きな物を食べていただき補っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行うよう努めている。歯科往診の際に医師にも口腔内の状態を見ていただき一人ひとりの状態に注意している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中、夜間共に毎日の記録を利用し個々の排泄パターンを把握し、出来るだけトイレで排泄できるよう心掛けている。オムツの使用はその方の安心材料等になるのであれば必要に応じて使用している。	排泄チェック表を作成し個々の排泄パターンを知ることに心がけている。トイレでの座り方がわからない人や腹圧のかけ方の解らない人がおり、その都度職員が声掛けを行い、排せつを促すようにしている。夜間のみ心配の方が3名オムツ対応を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘薬だけに頼らず、普段の水分量に注意し排便のない日数に応じて看護師、医師に相談し薬の調整を行うよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間、曜日を決めず入居者の意向を尊重しいつでも入浴できるよう努めている。また、衛生面を考えた上で無理強いせず、どうしたら気持ちよくスムーズに入浴できるか探り個々にそった支援をしている。	週3回を目標に同性介助を心がけている。入浴剤を使用して気持ちよく入浴出来るように工夫している。男性3名が入浴の誘いを拒否をするが、女性職員の優しい声掛けで入浴ができている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠状況を記録に残し、眠れない方は眠れない原因を探り、改善できるよう努めている。また、日中は個々の状態を理解し休む時間を取り入れるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々既往歴や現在の身体状態を把握し、処方薬の効果、副作用等を看護師、医師と連携を取り確認してくよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人がやりがいをもてるように日々の生活の中でその方に合った役割を、負担にならない程度に待っていただいたり。また季節ごとの行事を行い楽しみのある生活を過ごしていただけるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の意向や御家族様の意向や話しを伺い、御家族様に協力をいただき可能な限り、外出できるよう努めているが、身体レベル等の状況によりなかなか思うようにいかなくなって、いくのも現状である。	コロナの関係で近隣での祭りや各種行事なども中止となり外出が出来なくなっている。今は事業所の周りを歩いて来たり、事業所横にある畑を見に行く程度になっている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は事業所管理となっている入居者がほとんどだが、管理が出来る方については、金額等御家族様と相談し決め持っていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話してもらい、本人宛の手紙が届いた際には伝えている。電話については、頻繁に電話の訴えがあることもあり、かける側へ予め承諾を得てから行うようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光、温度調整をこまめに行い季節の花を飾り季節感を取り入れるように努めている。	花壇に咲いた花や季節の花を花瓶に差してフロアーに飾ったり、折り紙やちぎり絵で季節に関係したもの（季節の花や鬼の顔）などを作って壁に貼っている。外からしか共有空間は確認できなかったが、テーブルの椅子やソファーに思い思いに座っていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席については、基本的にいつも同じ場所に座っていただき、、自分の座るところを意識し居場所があることを感じられるようにし、気の合った同市思い思いに過ごせるよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	これまで生活していた部屋と似たような空間で生活していただけるよう、使い慣れた家具、馴染みのある物を持って来て頂き配置等は御家族様と相談し決めるようにしている。	居室内の見学はできず聞き取りのみ行った。個々の希望で大きめの一面鏡やミシン、昔から飾っていたぬいぐるみ等を持ちこんでいる。以前から寝ていたベッドを持ちこんだ人もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体機能低下により重度化した場合にも対応できるよう、車椅子対応型のトイレや洗面所の設置をしている。また、自分の部屋が認識できるよう各居室に表札を取り付けている。		